

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

【第1部】2012シーズンの振り返りと2013シーズンのチーム体制・目標について

司会：

皆さま、大変長らくお待たせいたしました。ただいまより「2013 大宮アルディージャサポーターズミーティング」を始めさせていただきます。本日、司会進行役を務めさせていただきます、大宮アルディージャ事業本部広報グループの原木でございます。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、サポーターズミーティングを始める前に、本日のメンバーをご紹介します。まず、代表取締役社長、鈴木茂。

鈴木：

大宮アルディージャの鈴木です、よろしくお願いいたします。

司会：

取締役事業本部長、久保田剛。

久保田：

久保田です、今年もよろしくお願いいたします。

司会：

取締役管理本部長、東山雄二。

東山：

東山です、よろしくお願いいたします。

司会：

ゼネラルマネージャー、岡本武行。

岡本：

岡本です。よろしくお願いいたします。

司会：

強化部長、古矢武士。

古矢：

古矢です。よろしくお願いいたします。

司会：

事業統括部長、伊藤一哉。

伊藤：

伊藤です。よろしくお願いいたします。

司会：

それでは、まず初めに、社長の鈴木およびゼネラルマネージャーの岡本よりご挨拶と昨シーズンの振り返り、および今シーズンのチーム体制・目標についてご説明をさせていただきます。

鈴木：

みなさん改めまして、あけましておめでとうございます。2013 大宮アルディージャサポーターズミーティングにお出でいただきまして誠にありがとうございます。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

まず、今シーズンのアルディージャのクラブ方針、目標等の説明をさせていただきますが、その前に一点だけ皆さんにお話をさせていただきたいと思います。2012 シーズンに対するアルディージャの社長としての評価と責任についてお話をさせていただきます。

昨シーズンは、3月から同じようにシーズンをスタートして、結果として勝点 44、13 位ということで残留しましたが、実は昨シーズンの 4 月 14 日、J1 第 6 節アウェイ 横浜 F・マリノス戦 1 対 1 で引き分けた雨の日の試合の終了後にファン・サポーターの代表の方と、私で話し合いをいたしました。

その時にファン・サポーターの皆さんと話し合いの中で、ファン・サポーターのご要望をいただきまして、その際でのポイントは 3 つでした。このままで勝点 50 は大丈夫なのかということと、その時点で鈴木淳監督は継続するのか、そしてシーズン終了後に、仮にこれが勝点 50 となった場合、鈴木淳さんを続けるのか。それが守れなかった場合・達成できなかった場合は、社長は責任をどう取るんだ、という話が、実は 4 月 14 日にありました。その時点で私がサポーターの皆さまとお話をさせていただいたのは「勝点 50 は当然諦めません」と。「鈴木淳さんは信用しているし、その後結果を出してくれると思うので継続します」と。「シーズン終了後の責任の取り方については、代表取締役社長である私とその責任の内容も含めて自分で判断させていただきます」という話で、その時点では話し合いが終了いたしました。その後、鈴木淳監督に頑張っていただいて、浦和レッズ戦等々でホーム 3 連勝して、一時、順位を 10 位まで上げました。ただその後、勝ち切れない試合が続き、最終的には 5 月 27 日の日曜日に本人に対して契約解除といいますが、次の監督に交代するということにさせていただきました。それは皆さん、マスコミ等も含めてご存じだと思います。その時点では、15 位まで落ちており、失点も多かったということもあってそういう判断をさせていただきました。その後ベルデニック監督体制で先ほどお話しした通りご存じの結果でシーズン終了しました。

アウェイ最終戦 12 月 1 日土曜日 J1 第 34 節エスパルス戦、0 対 0 で引き分けて勝点 44 で終わりましたが、その試合終了後、同じようにファン・サポーターの代表の方と話し合いを持ちました。何かと言いますと、結果として鈴木淳さんを信用して続けると言ったのに、契約をやめて監督を変えたということ、それと勝点 44 ということで、勝点 50 以上を達成できなかったということ、それに対して社長としての責任をどう取るのかということ、について話し合いがありました。その時点で、サポーターの代表の方の要望がありまして、4 月 14 日の話し合いと、12 月 1 日の話し合い、サポーターとこういう話し合いを持ったということをオープンにしてほしいと。プラス、社長がどういう責任を取るかも全てオープンにしてくださいと。プラス、サポーターの方からは、社長の退任を望んでいるわけではないと。そのオープンにする時期については、新たな体制といいますが、新年になってからでもよいので、はっきりしてほしいということで話し合いは終わりました。

先ほど言いましたとおり、社長の責任の取り方をどうするか、責任内容も含めてどうするかは、私の判断ということでよいと言っていたので、私が考えたところ、皆さまにオープンにできる一番いい場はサポーターズミーティングなんだろうと。かつ、これは議事録に残りますので、そういう意味で今日を選びました。

結果として勝点 44、非常に不本意な成績なのですが、結果として 44 しか達成できなかったこと、鈴木淳さん、監督を代えたということは、4 月 14 日の話し合いでの約束、それを破ったわけですので、私が責任を取るということになります。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

これから、どういう責任を取るかを一言話をさせていただいた上で、今シーズンの取り組みについて話をさせていただきたいと思います。

責任の取り方には色々あると思っています。私は、J2 のアルディージャから経験しています。従ってその J2 を経験している私が社長として戻ってきて結果を出せず責任を求められるということは、しっかり頑張れよ、という叱咤激励ということでも受け止めています。責任の取り方は色々な取り方がありますが、私は 2013 シーズンをアルディージャ 15 年目、チーム 45 年目、新たなクラブハウスと新たなグラウンドができてスタートの、新たな歴史のスタートの年だと思っています。従って、私がいる間に色々な基盤を整える、将来に向けて基盤を整えるということが、私の責任の取り方だと思っています。従って、具体的に選手補強等については、後ほど岡本 GM から説明がありますが、大事なことで言いますと、練習場などのハードは整いました。今年、基盤を築いて 2013 シーズンに臨むということで考えると、メディカル体制、トレーナー体制も充実改善を図っています。もう少し言いますと、選手の食事、管理栄養士等の充実も図り、そういうことを今考えて 2013 シーズンに臨んでいこうということでスタートしました。トレーナーについても今まで 3 名体制のものを、アドバイザー含めて 5 名体制とします。ドクターについても病院を少し変えて、去年けが人が多かったということも反省し、実施し始めています。プラス、アカデミー体制です。アカデミー体制についても、昨シーズン 12 月 29 日、Jr.ユースが、U-15 の高円宮杯決勝をガンバ大阪ジュニアユースと対戦しました。非常にいい試合をしましたが、結果 2 対 4 で負けています。やはりフィジカルも含めて、アカデミー体制もしっかり取り組まなくてはならないということで、食育、栄養管理面、もう少し言いますと、その人たちがユースに上がってトップに行くために、ユース年代の全寮制度もやっていこうと。そういう基盤を整えていくのが私の今の責任だろうと、それが責任の取り方だろうと思っています。ポジティブシンキングで責任を取っていきたいと。責任の取り方ということで、例えば、報酬返上だとか、そういったことも考えてみましたが、それは単なる私一人だけの責任の取り方であって、それではクラブは良くならないという言い方には御幣があるかもしれませんが、クラブのためにはならないと思ひまして、これから 50 年後、100 年後の歴史に向かって行くクラブとして、今の時点の責任の取り方はそういうことだろうという様に考えております。昨シーズンの 4 月、12 月の話し合いを受けて、私の責任の取り方については、ファン・サポーターの皆さまからの叱咤激励を受けて頑張るということでぜひご理解をいただきたいと思います。

それをまず申し上げた上で、今シーズンの目標等についてお話を差し上げたいと思います。まず、今シーズンの一番は、チームの目標だという様に皆さま感じると思っています。先ほども午前中、記者会見でも発表したのですが、勝点 53 以上ということで考えています。3 年前に発表した「Ardija Vision 2020」の中でも毎年勝点を定めています。その流れで 53 以上を目指します。昨シーズンのベースで行くと 4 位相当です。ただ、GM、監督とも話しているのですが、昨シーズンの終盤の戦いを継続することで、間違いなく達成する目標だということで、認識はぴったり合っています。その上で目指せるものがあればもっと上を目指そうということで今考えております。

次に 2013 シーズンのスローガンですが、皆さまも非常に終盤、「大宮共闘」ということで、選手もスタンドもみんなまとまって応援していただいたと思います。私たちは、今までの残留争いを超えて戦わなくてはならないという思いが非常にあります。勝点 53 以上ですから。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

そうすると、それを達成するためにはやっぱり皆さんと一緒に戦うということが大事だということで、2013 シーズンは「大宮共闘」全員で一緒に闘おうと。結果、勝利を共にしましょうということで、今考えています。それに向けて色々な施策等については、久保田事業本部長等から話があると思います。

それともう一点あります。先ほども少し触れたのですが、大宮に新しい練習場ができた今シーズンは新たな歴史のスタートになると思います。ぜひ皆さまと一緒に新たな歴史を作るために一緒に頑張っていきたいと思います。この思いについては、先ほど選手ミーティングでも伝えました。歴史を作るのは選手、もう少し言うと、私たちフロントだけではなくて、ここにお集まりの皆さん含めて、私たちと「大宮共闘」で闘っていただける皆さんがいるから、歴史が作れるのですと。一步一步、歴史を作っていきますということで、選手にもお願いしました。是非、皆さんも私たちの思いを感じていただいて、受け取っていただいて、3月2日から開幕いたしますが、是非今シーズンもよろしくお願ひしたいと思います。クラブ・フロントの方針も含めまして私からのお話はこれで終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

司会：

それでは続きまして、ゼネラルマネージャーの岡本より、昨シーズンの振り返りと今シーズンのチーム体制・目標についてお話をさせていただきます。

岡本：

こんばんは。GM の岡本です。まず初めに、昨シーズン本当に苦しい中、皆さんから本当にご支援いただきまして誠にありがとうございました。今シーズンはチーム一丸となって、より上を目指すように頑張りますので、またご支援の方よろしくお願ひします。

それでは昨シーズンの振り返りということで、お話をさせていただければと思っております。まず社長の鈴木からもありましたが、「Ardija Vison 2020」には、「未来を、ともに。」の中で「チームの未来」があります。私の仕事としては、この「チームの未来」をいかに達成するかが、私の仕事だと思っております。「チームの未来」では、「国内でトップクラスの成績を残す」というところです。それを達成するためにはどうすればいいかということで、以前にもスライドでお話をさせていただきましたが、「育成＋他チームからの移籍」によるバランス型の強化ということを考えております。今のチームはほとんど9割方が他チームから移籍した選手ばかりです。安定した力を付けるためには、やはり育成組織であったり、後は、新人選手をしっかりと育成してチームの基盤となる選手を育てることが大事だと思っております。どうしても他チームからの移籍選手ばかりですと、その時の状況であったりですとか、お金についても掛かってしまって、やはり安定した力を付けることはできない、という様に考えております。

そして中長期の目標というところでは、昨シーズンについては勝点50以上ということでしたが、達成することが出来ず本当に申し訳なく思っております。今シーズンについては、昨シーズンの終盤の戦いを踏まえて勝点53以上、入賞を狙っていきたく思っております。昨年については本当に拮抗したリーグ戦になりまして、勝点53ですと4位相当に当たるのですが、やはり例年であれば、中位以上というところです。やはりまずはしっかりと残留争いをしない、そして更に上を目指していくということで、目標として立てました。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

昨シーズンの振り返りというところでは、勝点 44、11 勝 11 分け 12 敗という成績で終了いたしました。詳細の部分をお話しさせていただくと、勝利数が 11 勝で全体で 12 位となっています。敗戦数については、12 敗で全体 6 位という成績になっております。引分け数、ここが非常に多くて 11 分けで、全体の中でも 3 位と非常に引分けが多かったです。全体に引分けが多く、勝ち切れない試合が多いということはこれで分かると思います。

では、戦いの分析についてお話をさせていただきます。得失点の順位では、総得点 38 で 18 チーム中 16 位でした。2 年前も含めて、総得点では、依然としてやはり改善されていないというのが現状です。総失点については 9 位で中位ぐらいです。得失点差は、マイナス 7 で 16 位です。ただこれについては、昨年のは前半戦は失点が多く、そういった部分でなかなか引分けで勝点を取ることができませんでした。そういった中で鈴木監督からベルデニック監督に交代したという経緯があります。ですから、得点は確かに少ないのですが、守備の安定というところはこれからも引き続きやっていかなければいけないと考えております。引分けの詳細を分析したところ、得点が取れなかった試合が 11 試合ありました。得点が 1 点という試合も 14 試合ということで、やはり守備の安定もあるのですが、やはり得点をどれだけ取るかというのが、勝点を積み上げていくためには必要になっていくと考えております。0 対 0 の引分けの試合が 5 試合、1 対 1 の引分けの試合が 5 試合というところで、失点の方は少なくはなっているのですが、やはり得点というところはまだまだ足りないのかなと感じております。年間を通じて得点力不足というところは勝ち切れない結果の要因になっていると分析いたしました。

では、監督別の勝敗についてお話をさせていただきます。鈴木淳監督では 13 試合戦いました。その中でやはり失点が 1 試合平均 1.7、得点が 0.8、なかなか勝点を取れない試合が続きました。

次にベルデニック監督になって、最初の 10 試合はやはりまだまだ安定した試合ができなくて、失点についても 1.9 と鈴木淳監督よりも多くなっていたのですが、残り 11 試合というところでは、失点 4、得点 17 ということで、1 試合当たり平均すると、得点 1.5、失点 0.4 ということで、終盤での戦いというのが、やはりベルデニック監督の戦術が浸透して安定した試合ができた要因と思っております。ベルデニック監督就任後のシーズン終盤は守備の改善が図られ、安定した戦いを続けられたことで、11 戦無敗でシーズンを終了することができたと思っております。

では、今年 2013 シーズン、勝点 53 以上を獲得するためにはどうすればいいかということですが、やはり昨シーズン終盤での戦いをしっかり継続して、安定した守備から得点を狙っていくということが必要ではないかと思っております。

そして昨シーズン終盤の守備を、更なる安定を図って失点を減らし、チームの熟成によって得点力をアップすることによって勝点を積み上げていくことができるのではないかと考えております。

チームコンセプトとしては、やはり守備です。守備をしっかり安定させる。そして攻撃のパターンの中ではやはり人に頼るのではなくて、様々なポジションの選手がゴールを決めるという、ゴール、シュートシーンを沢山作るということが必要になってくると思います。そういった部分では堅守多攻という様な形でチームコンセプトを考えております。

そして監督についてですが、監督・選手については、いつも私なりに常にリストアップしています。その中でどの監督・どの選手を取ることが一番ベストなのか、ということの中で選択させていただいております。

「2013 大宮アルディージャ サポーターズミーティング」議事録

監督についてはやはり、昨シーズンの終盤の様な戦いを考えて、ベルデニック監督に続投していただくことを考えました。さらにコーチングスタッフの充実というところでは小倉ヘッドコーチに残ってもらい、さらにフィジカル面の強化、先ほど社長から話があったと思いますが、けが人が多かったという部分もありますので、そういったところを含めて 1 年間戦える選手を作るということで里内コーチを招聘いたしました。そういった中でコーチングスタッフ+先ほどの環境、そういうところをプラスしてチーム力を上げていければと思っております。

そして選手補強についてですが、基本的な考え方としては、昨シーズンの主力選手を中心とした継続したチーム編成を行おうと考えております。しかし何名かの選手は移籍することになりました。ただ、ここ 2 年間は、チームの半数以上の選手を移籍して獲得しております。そういった部分で、この 2 年の経験上、やはり多くの選手が代わることによって、チーム戦術が浸透するまでに時間がかかるというリスクもあります。

そういったことを考えて、選手については今いる選手を基本として考えております。そしてここ 2 年で年齢バランスを含めて選手のチーム、選手の力という部分では、他のチームに負けない選手たちが集まってきていると思いますので、そういったところをしっかりと伸ばしていくのが大事じゃないかと考えております。

選手補強のところでは、他クラブからの移籍というところでは、高橋祥平選手一人となりました。ただ若い選手の中で、期限付き移籍から復帰してきた、福田選手、宮崎選手もレンタル先で経験を積んでチームの力に必ずなってくれると思っております。そして新人選手では昨シーズンは獲得することができませんでした。今シーズンは 3 名の選手が入ってくれることになりました。一人はストライカーの富山選手、もう一人がディフェンダーの今井選手です。この二人については大学卒ですが、それなりに実績もありますし、即戦力としてチームの中心になって戦ってくれる選手になると思っております。

そしてユースの川田選手については、将来性もある選手なのでこれからしっかり育てて、チームの中心になる様な選手に成長していければと思っております。参考までに勝点 53 というところですが、昨年は 4 位相当に当たりますが、例年であれば 6 位、7 位という上位のところ。やはりしっかり今年は残留争いをしないで、さらに上を目指せるような順位を常にキープするというのが大事になってくると思っております。以上で、私の方の説明を終わらせていただきます。